

令和5年度 第1回 学校運営協議会・学校関係者評価委員会（議事録）

岡山県立岡山西支援学校

開催：令和5年7月6日

10:00～11:30

出席者

■ 学校運営協議会委員

岡田委員、祇園委員、熊代委員、澤井委員、武縄委員、田中委員、友末委員、荻原委員、安原委員、山岡委員

■ 本校職員

宮内副校長、神田事務長、小銭教頭、小川教頭、小田教頭、濱野主幹教諭、竹内生徒指導主事

1. 開会

【 学校長 】

昨年度より本校もコミュニティスクールとなった。地域とのつながりを大切にして、学校運営を行っていききたい。

今日は報告が中心となるが、忌憚のないご意見をいただきたい。

【 会長・副会長の選任 】

（事務局）本来は互選であるが、今回は事務局より提案をしたい。会長を岡田委員、副会長を安原委員としたいが、どうか。

（委員）＜賛成多数により承認＞

* このことにより、学校運営協議会の司会は岡田委員が務めている。

2. 協議

学校運営について（学校長）

(1) 学校教育目標について

- より具体化したプランを職員会議で共有し、また、職員室前にも、図にしたものを掲示して共有している。

(2) 学校経営計画について

- R04 末の学校運営協議会で提案し承認されたものから変更はない。
- ここに記した「本校のビジョン」を実現できるようにしていきたい。

(3) 学校経営目標について

- 「地域とのつながり」については、コミュニティスクールとして考えると、まだまだ取り組みが足りないと考えている。コロナ対策が緩和されたので、この取り組みが進められるようになってきた。アフターコロナとして、いい姿を目指していきたい。
- 「防災」についても、地域とともに進められたら、と考えている。
- 「センター的機能」については、地域の五校園で「コーディネイター連絡会」を立ち上げて、定期的につながりをもっている。情報共有を密にして、課題の共有、そして解決について共に考えられるようにしていきたい。

各学部の学部経営計画について（各部教頭）

- 各学部とも、資料をもとに説明を行った。

【 質疑応答 】

- 男女交際について

（委員）：先日の報道で「一般の高等学校では、70%の学校が男女の交際を禁止している」というものを目にした。本校高等部でも、男女交際に関する規則があるか？

（生徒指導主事）：本校高等部では特に制限は設けていない。

ただし、生徒の実態から「交際」に関する価値観の相違がみられており、そのことがトラブルの原因ともなっている。社会を目指す高校生として「望ましい男女の距離感」について、指導を行っている。

（担当教頭）：加えて、外部専門家を招いての授業も行っている。

- 生成型 AI の活用について

（委員）：各々とも「ICT 機器の活用」をテーマとしている部分があった。「児童生徒にとって分かりやすい授業を目指す」ということならば、生成型 AI を活用していくことも考えられるが、本校は何か計画があるか。

（担当教頭）：生成型 AI の利用については、国からのガイドラインが発表されたばかりである。今後、授業に活用することができるかどうか、しっかりと検討を行っていきたい。

いじめ対策について（生徒指導主事）

- 資料をもとに説明を行った。
- 認知したケースについては、引き続きモニタリングを続けている。もちろん「まだ解決していない」と判断されるケースについても、モニタリングを行っている。
- 今年度の「生活アンケート」を実施した。こうした取組みで、埋もれているかもしれない問題を掘り起こして、積極的に対応していきたい。

【 質疑応答 】

- 児童生徒の自殺対策について

（委員）：昨今、児童生徒の自殺が問題化している。本校では、心配な事案は挙がっていないか。

（生徒指導主事）：現在のところ挙がっていない。

ただ、早期発見・早期対応のため、アンテナを高くして、情報収集に努めたい。

- 生活アンケートの実施について

（委員）：実態的にアンケートの実施が難しい児童生徒も在籍していると思うが、何か工夫をしているのか。

（生徒指導主事）：紙ベースでのアンケートに加えて、Google forms も活用している。アンケートを「教育相談の機会」ととらえて、教師がしっかりと児童生徒に向かい合うようにすることで、精度の高い結果となっているのではないかと思う。

加えて、「保護者向けのアンケート」も一緒に行っており、児童生徒が学校で話せていない事柄についても、拾い上げることができるようになっている。

3. まとめ（各委員より）

- （委員）前回来校した時と比べて、コロナ対策が緩和されて、雰囲気が明るくなったように気がする。
「安全」に関することだが、校舎の耐震は大丈夫だろうか？
また、避難訓練についても、児童生徒に会ったものを工夫してほしい。以前、防災学習の一環で「避難食」の調理を行ったが、とても好評だった。
- ⇒ 「耐震」については、県より「問題ない」と言われている。
「避難訓練」については、今年度は二次避難（平田旭川荘グラウンド）を実施した。児童生徒はとても落ち着いて避難できたと思っている。
地域との避難訓練についても、今後しっかりと打ち合わせをして、いいものを目指していきたい。（学校長）
- （委員）公民館も「地域に開かれた公民館」を目指している。地域の機関の一つとして、学校と協同して様々な取り組みを行っていききたい。
7月末には、要支援者の避難訓練を企画している。
- （委員）高等部の作業学習の様子が非常に印象的だった。特に木工はレベルが高い学習を行っているのではないかと感じた。
資料では、卒業生の半数以上の進路先が就労系となっている。生徒の進路先について「就労系」か「福祉系」かの判断をいつ頃行っているか。
- ⇒ 高等部3年での現場実習は「前提実習」となるため、2～3年あたりにはだいたい決まっている。（高教頭）
- （委員）「特別支援教育の理解推進」「センター的機能」については、相互に人材の交流ができれば、より高い次元で実現できるのではないかと感じた。校内での情報交換のように、地域の学校とも気軽に情報交換できるようになれば、お互いにとってメリット大きいものとなると思う。
加えて、通常の学校でも「支援教育の視点」を取り入れた学級づくりが、インクルーシブ教育の推進のためにも必要と考えている。
- ⇒ コーディネーター連絡会にこだわらず、いつでも気軽に本校コーディネーターへ連絡してほしい。情報交換していきましょう。（学校長）
- （委員）支援が必要な児童生徒に対する性教育が系統化されていないように感じる。「何となくやっている感」がぬぐえない。アドバイスをいただけないだろうか。
- ⇒ 性教育については本校でも同じ課題を感じている。平田旭川荘との情報交換を行い、成人してからの課題をもとに、在学中に「何を学んでおく必要があるか」について考えていきたい。（学校長）
- （委員）キャリア教育の視点をもって指導に当たっている姿が印象に残った。清掃道具もプロと同じ物を使っている。児童生徒に対して「働くことができる環境」をしっかりと整えていた。
- （委員）児童生徒が気持ちの良い挨拶をしてくれてうれしかった。
本校児童生徒には卒業後も、健康で元気な生活を送ってほしい。しっかりと体を動かして体力を養ってほしい。加えて、口内の健康を大切にしてほしい。成人でも、歯磨きができても「ガラガラうがい」ができない人が多い。小さいうちから学習を積み重ねていけば、卒業後の生活が、より豊かなものになると思う。
- （委員）校長が「働く」について「労働という視点だけでなく、その人の存在が周囲を暖かくすることも、立派な”働く”だ」と言っていたことが印象に残った。今日の説明で「働く」という言葉の新たな側面を知ることができてよかった。

(委員) 福祉サービス等とのつながりは、どのようになっているか。

⇒ 送迎の際に、それぞれの担任が児童生徒の様子について情報交換を行っている。また、必要に応じて、ケース会への参加をお願いしている。(主幹教諭)

4. 学校関係者評価について (濱野主幹教諭)

- 今年度の実施スケジュールとより結果を分析しやすい質問事項への変更について、資料をもとに説明を行った。

【 質疑応答 】

- 教師のワークライフバランスの質問事項について

(委員) : よりよいワークライフバランスを目指すためには、保護者の理解と協力が必要不可欠だと思う。保護者への質問事項にも「教師のワークライフバランスについて」の項目があってもよいのではないか。

(主幹教諭) : 検討していきたい。

5. 閉会

【 学校長 】

教師のワークライフバランスについては、県全体の課題である。県が紹介している動画に、本校の取組が紹介されているので、ご覧いただけたらと思う。

今回いただいた意見については、今後の学校運営に取り入れていきたい。そして、第2回、第3回の学校運営協議会で、良い報告ができればと思っている。